

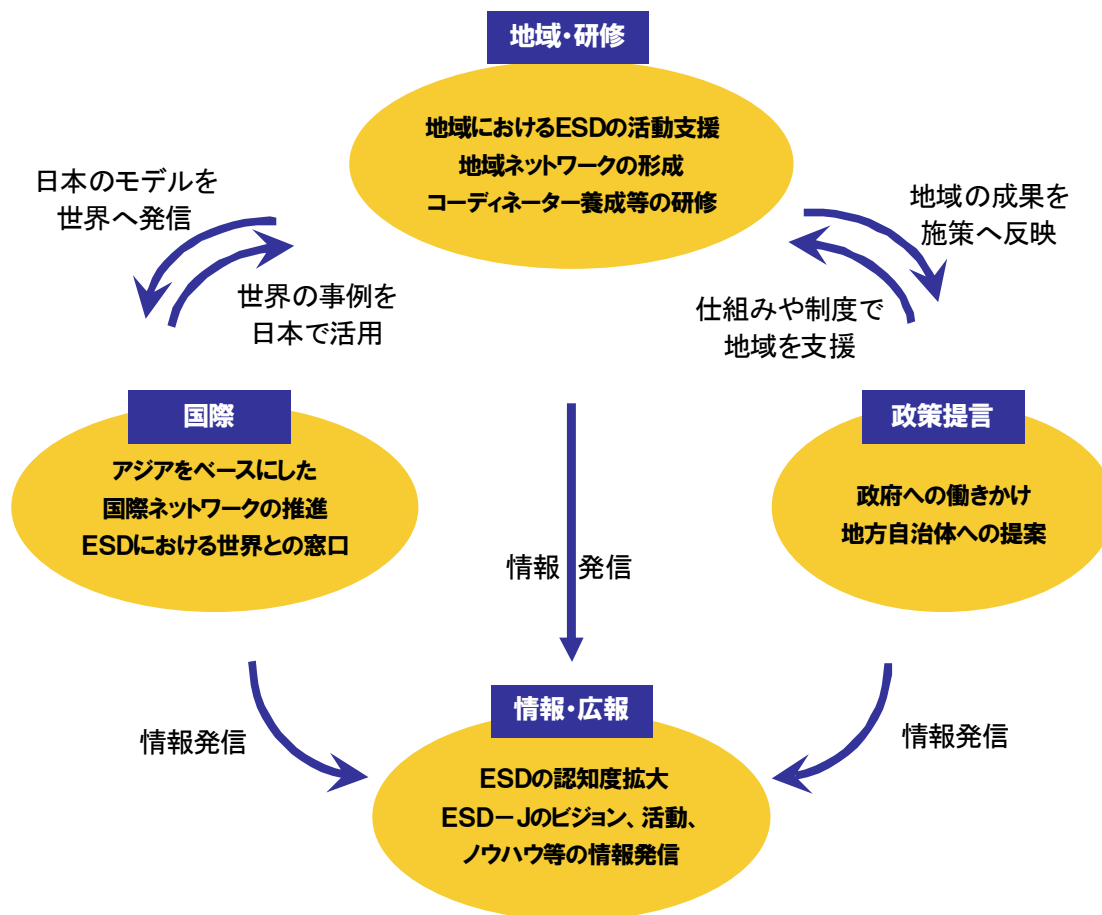
# 2007 年度事業報告

<2007 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日>

## I. 概要

2007 年度は「国および地域レベルの“ESD 推進に必要な支援を提供できる仕組み”を模索し、そのビジョンを形成するための期間」の 2 年目であった。この目標達成に向け、理事会ではそれぞれのプロジェクトチーム（以下 PT）の役割とその関係を下図のように整理し、各 PT の事業が相互的に作用しながら、その成果を高めていくことを 2007 年度の事業方針とした。

（この図では研修 PT は地域 PT の中に表現されている）



“ESD 推進に必要な支援を提供できる仕組み”に関しては、国レベルと地域レベルで検討・働きかけを行った。国レベルでは与党による「ESD 推進議員連盟」が発足、国内実施計画策定以降具体的な動きに見えなかった関係省庁連絡会議が円卓会議を設置することになった。ESD-J としては、この円卓会議を実効のあるものにする、国レベルの ESD の 10 年の達成目標の設定、その実現のための施策の提言、進捗を測る仕組みの確立などが次に来る課題となっている。

地域レベルでは、先進的に ESD に取り組んでいる地域の活動のプロセスに学ぶワークショップや、環境省 ESD 促進事業のモデル地域の取り組みから課題やヒントを抽出する取り組みを始めている。またアジアの ESD 実践事例も 7 カ国 28 事例を収集、現在分析に入った。これらを集大成し、提言にまとめていく作業を 2008 年度に引き継いでいく。

さらに 2007 年度の課題であった ESD-J の活動のタイムリーな情報発信および会員外へのアプロー

チに関しては、メールマガジンの発行、地域ブログの立ち上げ、経団連での ESD セミナー開催、企業や自治体との協働プロジェクトのスタートなど、新たな展開が見えてきている。これらをさらに具体的な事業展開にできるよう 2008 年度に期待をするところである。

## II. 事業活動

### 1. 地域ネットワークの形成および交流支援事業（地域 PT）

---

【ミッション】 地域（市・町・村・県・ブロック）で ESD 推進の仕組みづくりのサポートをする

#### ●2007 年度の目標

- ・意欲的に ESD の仕組みづくりに取り組んでいる地域と協働して、ESD モデル地域づくりに取り組む
- ・ESD 推進自治体のネットワークづくりに着手する

#### ●2007 年度の主な事業

##### 1) 地域の ESD モデルづくり協働事業 1 ～分野連携ワークショップ

2006 年度事業で作成した新規に地域で ESD 活動をスタートする際の「分野連携ワークショップパッケージ」を宇都宮、豊田、神戸の 3 地域で実践し、地域の小さな協働プロジェクトを生み出す支援をし、またパッケージの検証を行った。

宇都宮：12/16、12/23 豊田：1/21、2/4、2/18 神戸：3/1、3/2

##### 2) 地域の ESD モデルづくり協働事業 2 ～プロセス抽出ワークショップ

既存の ESD 的な学習活動から、ESD が溶け込むプロセスを抽出し、ESD を広げる有益な知見を得ることを目的に、東京都板橋区と岡山市京山地区の 2 地域において「プロセス抽出ワークショップ」を開催した。ワークショップを通じて抽出された内容について分析を試み、とりまとめ案を岡山で開催された公民館サミットで発表した。

板橋：7/10、7/16、10/29 岡山：9/24 公民館サミット：11/3

##### 3) 地域の実践交流セミナー（全国ミーティング）の開催

ESD 関係者が集い、ESD-J の活動成果や、ESD の今を共有し、ESD のこれからを一緒に語り合う交流セミナーを開催した。

3/8～9 開催 参加者：200 名 活動発表：14 件 パネル出展：20 件

##### 4) ESD 推進自治体ネットワークづくりの働きかけ

環境自治体会議（6 月）にて「ESD 推進自治体ネットワークづくり」の呼びかけ文を配布、説明した。また、日野市、豊中市などに個別に働きかけ、自治体としての意見を収集した。

#### ●2007 年度の主な成果

##### 1. ESD 導入パッケージワークショップの試行

会員の協力を得て「分野連携ワークショップ」を 3 地域で実施したこと、さらに豊田市においては、創出されたプロジェクトが現地で展開されていること。今後も、ESD-J 会員とともに、他の地域に拡大していきたい。

##### 2. ESD 推進における 3 つの知見を整理

「プロセス抽出ワークショップ」を通じて、①市民活動や地域づくりに果たす学習の役割の整理  
②地域課題やグローバルな課題を解決するための学習における公共的学習支援機関の役割の整理  
③地域の既存の学習が ESD に発展していくために必要な課題の整理 を抽出することができた。

### 3. 全国ミーティングの規模拡大と ESD 研究会の開催

今年度は全国ミーティングの日程を 2 日間に拡大し、内容も参加者も充実できたとは成果であった。また 2 日目に開催した ESD 研究会は、その内容や準備には課題も残るが、会員と共に ESD の内容を深める場づくりを開催したことに意義はあり、会員や参加者どうしが刺激され、問題提起し合える場となった。

#### ●課題

- ・地域の既存の学習が ESD に発展していくために必要な課題 (1) 地域の共通の理念をつくり目標を共有する、(2) 目標に向けた課題解決のプロセスを学習カリキュラム化する、の 2 つを実践してみること
- ・研究会の質を深めていくには、企画を練る段階からの十分な準備と会員の参画（を募ること）と実施時の十分な時間が必要
- ・自治体ネットワークづくりは、自治体側のメリットやニーズの喚起ができていなかった

## 2. 政策提言および調査研究事業（政策 PT）

---

【ミッション】 政府、地方自治体、国際機関等を通じて、ESD を推進する仕組みを作る

#### ●2007 年度の目標

- ・政府の体制強化と官民による協働推進体制の確立を実現させる
- ・参議院議員選挙に向けた各政党への政策提言や、議員連盟立ち上げ支援を通じて、政策提言に取り組み・環境省 ESD 促進事業・全国事務局の取り組みを通して、ESD 推進に必要な仕組み等を抽出する
- ・政策提言に必要な国内外の ESD の取り組みの調査研究を行う

#### ●2007 年度の主な事業

##### 1) 「官民協働による ESD を推進する仕組み」の提言づくり

- 4/15、9/17、12/16、1/29：政策提言のための理事ミーティングの開催
- 1/30 「ガソリン税を地球税に」緊急提言
- 3/9 全国ミーティングの研究会で ESD を深める議論を行った

##### 2) 政府の ESD 推進体制強化に向けた働きかけ

- <議員への主な働きかけ>
- 5月～ 議員連盟の立ち上げに向けた働きかけ
- 6月 参議院議員選挙に向けた各政党への公開質問状提出
- 6/21 ESD 推進議連発足
- 2/19 第二回 ESD 推進議連総会開催
- <政府への主な働きかけ>
- 議連を通して円卓会議設置および連絡会議の強化を働きかける
- 1/22 第一回 ESD 円卓会議が実現
- 3/26 第二回 ESD 円卓会議開催
- <教育行政への働きかけ>
- 3月 学習指導要領改訂に向けた提言アクション

##### 3) 環境省 ESD 促進事業（全国事務局）

- ・検討委員会の開催
  - 7/24 第 1 回検討委員会
  - 3/11 第 2 回検討委員会
- ・採択地域の支援（一斉支援）
  - 9/26 キックオフミーティングの開催

- 2/14～15 経験交流ミーティングの開催
- ・各採択地域にて地域担当者が個別に支援
- ・広報事業：ウェブサイトの構築、採択地域の成果報告会の支援など

#### 4) G8サミット NGO フォーラムに参画

2008年洞爺湖サミットに向け、NGOの政策提言を形成・提案することを目的としたネットワーク組織「G8サミット NGO フォーラム」に運営 NGO として参加、環境ユニット、貧困・開発ユニット、平和・人権ユニットの全てに登録した。

### ●2007年度の主な成果

#### 1. ESD を地域で推進する仕組みの検討

「ESD を地域で推進する仕組み」の具体的なドラフトは作成することができなかったが、全国ミーティングの研究会で、地域で ESD を推進するための課題とその打開策について話し合い、その内容をまとめることができた。

#### 2. 「ガソリン税を地球税に」の提言に 15 の団体、50 名の個人から賛同を得た

社会が注目するテーマに関し、持続可能性の視点から提言を行うことで ESD の実践の一つの在り方をアピールできた。

#### 3. 政府の ESD 推進体制強化

与党のみとはいえ ESD 推進議連が発足した。また、議連の影響もあり、ESD 円卓会議が設置された。円卓会議のメンバーに、ESD-J 代表理事および ESD-J 関係者が多数入り、今後の政府への働きかけのよい仕組みができた。

#### 4. ESD のモデル地域支援

10 地域で 2 ヶ年のモデル事業を終了し、それぞれに学べるポイントを抽出した。また、新規に 4 地域が採択され、第二期モデルとしての成長と期待が俟たれる。また、この事業を通じて、地方 EPO と連携の基礎を築くことができた。

### ●課題

- ・調査と提言作りのプロセスを年度の最初にしっかりとデザインし、事務局スタッフや資金などのリソースを配分しておくこと
- ・議連を超党派で立ち上げていくことができなかった。野党への働きかけが課題
- ・政府や議連や円卓会議関係者などの心を動かすだけのわかりやすい ESD の具体的な目標や方策ならびに評価指標を ESD-J として集約して提言すること
- ・ESD 促進事業を通じて、ESD の内容と、それを継続的に実施していくための仕組み、また ESD 推進に必要な支援の方法について明確化すること

### 3. 研修および普及啓発事業 (研修 PT)

---

【ミッション】 これまでの成果を生かし、よりいっそうの ESD の理解をすすめて、地域での活動をひろげ、つないでいくための研修および啓発事業を行う。

### ●2007年度の目標

- ・テキストブックを活用した ESD 入門講座のプログラムを開発し、実施する（主な対象は自治体職員、大学など）
- ・ESD コーディネーターの役割や技能を明らかにし、コーディネーター入門講座の開発に着手する。
- ・理事やスタッフを対象に、マネジメント、政策提言力の向上および評価についての研修を行う。

## ●2007年度の主な事業

### 1) ESD 入門研修の開発と実施

昨年開発したテキストブックやすでに行ってきた研修をベースに 30 分、1 時間、半日、1 日バージョンの研修シナリオと、プレゼンテーションデータを作成した

### 2) 出前講座・研修・ワークショップの開催

- ・教員向け研修 (6 件：文科省・茨城県 各 3 回)
- ・市民向け研修 (8 件：環境カウンセラー研修、環境教育リーダー研修など)
- ・行政職員向け研修 (1 件：環境省主催の地方自治体環境教育担当者研修)
- ・学生向け講義 (2 件：宮城教育大、岐阜県立森林文化アカデミー)
- ・その他・イベント等 (11 件)

### 3) ESD コーディネーター養成研修の開発・実施

5/7、6/18 研修 PT による検討

全国ミーティングの研究会で「ESD コーディネーター養成講座」を実施、ESD コーディネーターの役割・必要な能力を整理した

### 4) 大学向け研修の開発と実施

6/18 研修 PT で検討

1/22 愛媛大学・現代 GP の相談対応

### 5) 理事研修 (目標設定と評価)

3/17 理事会 : 評価の在り方に関する講義と、評価シートの作成

4/15 評価 WS : 各 PT が作成した評価シートをもとに議論、評価シートをブラッシュアップ

9/17 政策提言 WS : NPO 法成立に学ぶ講義 (C' s 松原氏) と、政策提言の方向性の議論

## ●2007年度の主な成果

### 1. ESD 入門研修のツールとプログラム開発

ESD 入門研修の基本的な流れ、ツールができたことで、ESD 入門のクオリティの向上と事前準備の効率化が図れた。

### 2. 出前講座・研修・ワークショップの開催

研修 15 件、イベント 11 件において講師派遣を実施し、主催者からの反応はおおむね良好、2008 年度に継続の依頼も数件ある。

### 3. ESD コーディネーターの養成

コーディネーター養成の入門コースを開発するには至らなかったが、全国ミーティングの研究会で「ESD コーディネーター養成講座」を実施、ESD コーディネーターの役割・必要な能力を整理した。

### 4. 組織運営能力の向上

今年度より PT ごとに評価シートを作成した。また、外部講師を招き「ESD 推進法」を進める際の手順や組織的負担のイメージを共有することができた。

## ●課題

- ・ ESD 入門講座の充実とステップアップ講座の開発と実施が必要
- ・ 講師派遣において、謝金の基準額を ESD-J としてきちんと整備することが必要
- ・ ESD コーディネーター養成の入門コース、ステップアップコースを開発することが必要
- ・ 大学向け研修の開発について、大学側のニーズが読めないこともあり、その取り組みに力を割くこ

とができなかった。

- ・評価シートの作成には多くの時間を割いたが、まだまだ時間が不足していた。事業計画と事業評価の在り方に工夫が必要。

#### 4. 情報収集・提供および出版事業（情報 PT）

---

【ミッション】 ESD および ESD-J に関する情報の収集・発信を通じて、会員内外へ ESD および ESD-J の理解を促進し、ESD 活動の活性化を図る

##### ●2007年度の目標

- ・地域リポーターの育成等を通して情報収集体制の強化を図り、情報ソースの多様化を実現する
- ・ウェブサイトによる情報提供の強化につとめ、アクセス数を2倍にふやすことを目指す
- ・メールマガジンの発行やウェブの強化を通して、会員外への情報発信の質と量を高めることで、ESD-J の社会的な存在価値を高め、ネットワーク基盤を強化することに努める

##### ●2007年度の主な事業

###### 1) ウェブページの充実

- ・ ESD トピックスの掲載と事例や Q&A 情報の更新
- ・ 地域の ESD を共有する「地域 ESD ブログ」をスタート
- ・ サイト構成のリニューアルの仕様検討
- ・ 48 万ページビュー/年間

###### 2) メールマガジンの発行

- ・ メールマガの発行：5 本（7 月、8 月、10 月、11 月、2 月） 臨時号 3 本（7 月、12 月、2 月）
- ・ 配信先：会員約 400 件、非会員約 1,400 件

###### 3) 「ESD レポート」の継続発行

発行：12 号（10 月）、13 号（12 月発行）、14 号（3 月発行）  
発行部数：6000 部  
発送先：600 箇所

###### 4) ESD&ESD-J リーフレットの発行

ESD および ESD-J を紹介する無料配布用のツールを開発  
B5 版 12 ページ 1 万部印刷

###### 5) ESD ブックレット「ESD-J2007 活動報告書」の発行

地域での協働モデルづくりの成果を中心に作成する  
A4 版 200 ページ 900 部印刷

##### ●2007年度の主な成果

情報発信に関して、メルマガや地域ブログなど新たな試みにチャレンジする他、発信情報数を増加するなど、WEB へのアクセス数も目標の 2 倍には到達しなかったが、25%と大幅に向上した。

###### 1. アクセス数が 25%向上

メルマガ等の発行を通じ、年間の閲覧ページ数を、36 万ページビュー/年から 48 万ページビュー/年へ向上させた。

###### 2. コンテンツ掲載数増加

ESDに関するニュースを投稿する「トピックス」の記事数を24本→61本に増発するなど、WEBへの情報掲載数を向上させた。

### 3. ESD 地域ブログのコーナーを新設

地域の活動を ESD-J のサイトを通じて会員自らが発信、対話ができる仕組みを設けた。

### 4. メールマガジンの発行開始

非会員1,400名へ不定期ながら、ESDに関する情報を発行することで、会員外への積極的な情報発信に努めた。

### 5. ESD(ESD-J) 紹介リーフレットの新規発行

ESD および ESD-J について、より分かりやすい表現で紹介するツールを開発することができた

#### ●課題

- ・今年度実施できなかった WEB ページのリニューアルを実施する
- ・メルマガをコンスタントに発行できる体制をつくる
- ・編集者の固定化の改善を図る
- ・テキストブック part2 を発行する

## 5. 国際ネットワーク推進事業情 (国際 PT)

---

【ミッション】 ESD に関する情報の国際的な受発信の窓口となり、ESD を推進する国際的な NGO ネットワーク (特にアジア太平洋地域を中心として) の形成と促進を図る

#### ●2007年度の目標

- ・AGEPP 事業、英文 web サイトなどを通して、海外の ESD に関する情報の収集・発信や海外への情報発信を充実させる
- ・国際ネットワークカフェや姉妹都市・姉妹校交流事業との連携モデルの検討などを通して、国際的な活動を入り口とした ESD 展開の方向性を模索する
- ・国際的なネットワークづくりの意義や方向性をあらためて検討する

#### ●2007年度の主な事業

##### 1) アジア ESD 推進事業 (Asia Good ESD Practice Project : AGEPP)

アジア地域における ESD 事例共同調査と7ヶ国の実践交流サイトの運営をした

4/26~29 韓国トンヨン市において第二回 AGEPP 国際会議を開催

11/24 インド・グラジャート州の ESD 事例現地調査

11/27 国際環境教育会議 (インド・アーメダバード) にて AGEPP を紹介する特別セッションを実施

3月末日現在、7か国から28事例が提出される

##### 2) 国際ネットワークカフェ

国際的な ESD 情報の共有と国内の会員間の交流の場づくりを目的として、ミニセミナーを継続的に開催した

6/16 第1回: ローカルアジェンダ21とESDの関わりについて

7/10 第2回: ~国境をこえるポーポキ~

10/2 第3回: 日本ホリスティック教育協会主催国際会議の報告

11/10 第4回: 中国のESD~民間ネットワーク (ESD-China) からの動向

1/25 第5回: 教育的視点から見る「アダプト・プログラム」とその国際動向

### 3) 英文ウェブサイトの充実

海外の動きを国内へ、国内の動きを海外へ発信した

### 4) 国際機関とのネットワーク作り

連携交流団体の仕組みを作った

### 5) 「姉妹都市・姉妹校」をベースとした ESD 展開のモデルづくりを検討

2007 年度は ESD-J としての直接的な取り組みには至らなかったが、理事が地域の取り組みの中で働きかけた愛媛県・内子町が、姉妹都市ドイツ・ローテンブルグとの関係を通じた ESD への取り組みをスタートさせることになった。

### 6) 国際ネットワーク推進の方向性の検討

共同議長体制および ESD-AP 設立準備委員会を解散し、ESD のアジアネットワーキングに向けたイニシアティブを ESD-J がとることで共同議長と合意。共同議長の下にあった 2 つのメーリングリストに所属していたメンバーリストを ESD-J で引き受けた。

### 7) 国際的な ESD 推進への貢献

5/4 第 15 回国連 CSD 会合・ESD ハイレベル会合 (NY) にて日本の取り組みを発表 (阿部)

5/4 アーメダバード環境教育国際会議準備会合 (NY) に、検討委員として参加 (阿部)

7/6 ダーバン環境教育国際会議 (南ア) に参加し、日本の取り組みを発表 (阿部)、同地でのアーメダバード会議準備会合に参加 (阿部)

11/23-36 アーメダバード環境教育国際会議 (インド) にて、サイエンティフィック・コミティー委員 (阿部)、AGEPP ワークショップを開催 (阿部、大前)

## ●2007 年度の主な成果

### 1. アジアにおける ESD の事例収集と連携

アジアにおける ESD 事例をさらに本格的に収集するという目的はおおむね達成された。また、秋にインド・アーメダバードで行われた世界環境教育会議に参加し、アジアの連携事例として発表し、欧州を含む世界各地の人々に存在をアピールできたのも貴重な成果だった。アジアの国々をつなぐ ESD-J の存在感を示せた。

### 2. 会員間の交流の場を創出

「ネットワークカフェ」を 5 回実施し、ESD の視点を持って世界各地で行われている事業を共有する機会を提供し、会員間の交流の場をつくることができた。また、学生のボランティアを巻き込むこともできた。

### 3. 英文サイトの情報量アップ

これまでに ESD-J が収集してきた日本国内事例を英訳し、ウェブサイトに掲載の準備ができた。

### 4. 「姉妹都市と ESD」において自治体への働きかけが具体化

愛媛県内子町へアプローチをし、来年度事業として ESD の取り組みが予算化された。

## ●課題

- ・ AGEPP の収集事例そのものと、収集した過程とメカニズムの価値などを、どのように出版物などにアピールできるかが課題。
- ・ ネットワークカフェは、国際 PT 単独の運営ではなく、ESD-J 全体としての事業として位置づけ、各 PT から担当者を募るなど、‘国際’の枠にとらわれることなく実施していくことが効果的
- ・ 英文 web の方針 (目的、目標、掲載内容に反映してくるものである) の検討が必要
- ・ ESD の 10 年の中間年にあたり、国内外とも国際 PT の役割を確認、検討することが必要であり、



他の PT との連携も考えながら、日本ならではのユニークな活動を展開することが必要

## 6. その他 (基盤強化・広報)

---

【ミッション】ESD-J がネットワーク組織として取り組むべき政策提言や事業展開を可能とするための組織基盤づくりと効果的な運営に取り組む

### ●2007年度の目標

- ・今年度を次のステップへの投資の時期と位置づけ、スタッフを一人増員し、体制強化を行う。
- ・ネットワーク組織としての総力を発揮できるような活動を生み出すべく、会員団体や企業とともに ESD 推進に関する勉強会を実施し、ESD をより広く進めていくためのプロジェクトを検討する。

### ●2007年度の主な事業

#### 1) 企業および会員団体との協働事業

- 9/3、9/14 日能研 社員向け ESD セミナーの開催
- 9/27 経団連 自然保護基金での ESD セミナー開催 参加者：40 社、60 名
- 2/5 NTT グループ CSR 担当者における ESD セミナーの開催

#### 2) 会員拡大・ファンドレージングキャンペーン

- ・N カフェ、学生向け勉強会など、非会員でも参加できるミニセミナーの開催
  - ・オンライン寄付サイト ガンバ NPO への登録
  - ・全国ミーティングの内容充実と会員割引率の向上
- 12/13～12/15 エコプロダクツ展へ出展

#### 3) 広報ネットワークづくり

- ・ニュースリリースの配送を通じた各省庁の記者クラブとのコミュニケーションづくり
- ・リストへの ESD レポート発送、メルマガ配信

### ●2007年度の主な成果

#### 1. 企業との具体的な協業の実績と足がかり

経団連にて 40 社、60 名の企業へ ESD をプレゼンテーションし、企業セクターへの認知度向上を図ったほか、日能研や NTT グループ CSR 担当者における ESD セミナーの開催などを通じて、企業との具体的な協業の実績と足がかりを作った。

#### 2. 会員の獲得

メルマガの発行、セミナー参加者への定期的な情報提供などのほか、N カフェ、学生向け勉強会など、非会員でも参加できるミニセミナーを開催。全国ミーティングの内容充実と会員割引率の向上などを実施し、個人会員を中心に入会者は増えたが、一方で退会者も多く、全体的にはほぼ横ばいとなった。

#### 3. 広報ネットワークの充実

7月の参院選時の各政党への公開質問状の取りまとめ状況や、地球税のアピールなどを、プレスリリースとして配布する活動の中で、各省庁の記者クラブとのコミュニケーションづくりを行い、また各メディアの中の特定の記者との連絡パイプの設定などを進めることができた。メディアからの阿部代表理事ほかへの接触も緊密になり、ESD に理解のあるメディア関係者とのネットワーク作りを強化しつつある。

## ●課題

- ・2007年の実績をもとに、より多くの企業へアプローチを図る
- ・新規団体会員獲得に向けたアプローチを積極的に行う
- ・ファンドレイジングイベントの実施は何かの事業と重ねて行う必要がある。
- ・全国紙の環境・教育等の担当記者、論説委員らとの意見交換会や勉強会を発足し、恒常的で深い関係づくりへ進化させる。
- ・全国各地の地方紙の記者らとの接触を図り、それぞれの地域での試みを地域で取材発信してもらえ  
る仕組みを構築する。

## Ⅲ. 会議等

### <総会>

通常総会 6月17日(日) 立教大学

### <理事会>

第1回理事会 5月19日(土) 立教大学12号館会議室  
第2回理事会 12月16日(日) 立教大学12号館会議室  
第3回理事会 3月7日(金) 環境パートナーシップオフィス会議室

### <理事ミーティング>

事業評価ワークショップ 4月15日(日)  
政策提言ワークショップ 9月17日(月)  
政策提言ワークショップ 1月29日(火)

## Ⅳ. 会員・理事・事務局等(2008年3月末現在)

### <会員> ※( )内は2007年3月末の数

団体正会員	94団体(94団体)	個人正会員	99名(103名) (+2)
団体準会員	11団体(12団体)	個人準会員	163名(157名) (+2)
賛助会員	5団体(4団体)		

### <理事>

代表理事 阿部治  
副代表理事 池田満之、重政子、竹内よし子  
理事 浅川和也、伊藤通子、岩崎裕保、大島順子、大前純一、清水悟、新海洋子、  
杵本育生、関口悦子、世古一穂、辻英之、降旗信一、前川実、宮崎稔、森良、  
山本幹彦

### <監事>

浅見哲、吉岡睦子

### <顧問>

池田香代子、岡島成行、廣野良吉、坂本尚、CWニコル、松浦晃一郎、水野憲一、三隅佳子

### <事務局>

事務局長 村上千里  
スタッフ (常勤) 佐々木雅一、後藤奈穂美  
(非常勤) 野口扶弥子、渡辺いずみ